

(参考)

産地パワーアップ事業
都道府県事業評価参考様式

都道府県名 熊本県

○ 産地パワーアップ計画

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物名	取組内容	成果目標	現状値		目標値		実績値		価格補正後の実績値	達成率	都道府県の評価
						年度		年度		年度				
熊本地域農業再生協議会	7	天明地区	トマト	低コスト耐候性ハウスの導入 オリコン出荷契約販売 栽培講習会等の実施	販売額の6%を超える増加	H30	5,681千円/10a	R4	6,029千円/10a	R4	4,580千円/10a	-	-316.4%	目標達成のためには、収量・単価の向上が必須である。今後は関係機関と連携し、課題である青枯れ病対策を徹底させるなどし、目標達成に向けて指導していく。
熊本地域農業再生協議会	8	天明・飽田地区	トマト	低コスト耐候性ハウスの導入 炭酸ガス施用(環境制御) 栽培講習会等の実施	販売額の10%を超える増加	R1	4,547千円/10a	R4	4,820千円/10a	R4	4,825千円/10a	4,636千円/10a	32.6%	収量・価格ともに現状値から増加(上昇)しているが、目標達成のためには更なる収量向上が必要である。産地内には収量が低い生産者がいるため、適正な定植時期の指導等、重点的な指導を関係機関で連携して実施し、さらには生産者同士での栽培技術の相互研鑽を図り、目標達成に向けて指導していく。
熊本地域農業再生協議会	9	北部地区	スイカメロン	出荷設備・空箱搬送ライン・自動箱詰めロボット整備及び下屋増築工事	販売額の6%を超える増加	R1	1,402千円/10a	R4	1,486千円/10a	R4	1,573千円/10a	-	203.6%	今回の施設整備により、出荷量・品質ともに安定した出荷が可能となり、販売額の向上に結びついた。今後も更なる販売額の向上に向けて、取り組んでほしい。

玉名市地域 農業再生協 議会	6	横島干拓	キャベツ	1 キャベツの生産面積の拡大 2 共同作業による作業の効率化 3 良質な土づくりによる収量の増加 4 年2作栽培の面積を増加させることによる、収量のアップ	販売額の10%以上の増加	R1	230,445円/10a	R4	253,823円/10a	R4	179,903円/10a	-	-217.1%	新型コロナウイルスの影響で需要量が減少しているため、新たな販路を開拓し、出荷量の向上に取り組んでほしい。
長洲町農業 再生協議会	3	長洲町	大豆	大型農業機械の導入・共同利用、防除機械の導入、地域に適した営農指導、適期作業の徹底	販売額の6%以上の増加	R1	5,911円/10a	R4	6,266円/10a	R4	6,786円/10a	-	246.5%	大型機械の導入により作付面積が拡大、適期防除や地域における営農指導の効果により販売単が向上したことから、販売額の向上に繋がっており、目標を達成している。
山鹿市農業 再生協議会	5	山鹿市・ 熊本市北 区植木町	花卉	リース機械・資材の導入による高品質化・生産力の向上	10a当たり販売額の10%以上の増加	H29	1,620,419円/10a	R4	1,814,965円/10a	R4	1,717,581円/10a	1,661,928円/10a	21.3%	販売単価は、計画時と比較し向上していることから、本事業で導入した資材・機械のより品質が向上したものと考えられた。しかし、目標は未達成となっており、これは出荷量の減少が原因であると考えられるため、今後は、病害虫防除や適切な品種選定等の栽培指導を行い、生産量の向上につなげていきたい。
阿蘇市地域 農業再生協 議会	2	波野地域	そば	大型機械(コンバイン)のリース導入	単位面積当たり販売額の10%以上の増加	R1	10,781円/10a	R4	11,860円/10a	R4	10,509円/10a	13,494円/10a	251.4%	そばの需要が増えたことにより、販売単価は向上している。更なる出荷量の向上を目指すため、栽培管理の徹底と新たな販路開拓を行うことが必要である。

阿蘇市地域 農業再生協 議会	3	阿蘇市	イチゴ	低コスト耐候性ハウスの導入により作業の効率化を図り、収量・販売額の向上を図る。	販売額の6%以上の増加	R1	5,738,304円/10a	R4	6,172,134円/10a	R4	6,911,576円/10a	6,454,246円/10a	165.0%	低コスト耐候性ハウスの導入により、気象災害のリスク低減と作業の効率化が図られ、収量が増加した。面積についても目標を達成している。
西原村地域 農業再生協 議会	1	西原地区	里芋	選果機を導入し選別精度向上による安定的な高品質里芋の出荷量確保と販売単価の向上を図る。	10a当たり販売額の10%以上の増加	H28 ~30 年平均値	344,879円/10a	R4	396,655円/10a	R4	470,216円/10a	503,428円/10a	306.2%	選果施設の能力向上により、安定出荷が可能となり、出荷量が増加した。また、選別精度が向上したことで、高品質な里芋の安定出荷につながり、地域の販売単価が下落している一方で、産地では単価が向上しており、目標達成につながった。
八代市 農業再生協 議会	7	八代市 鏡地区	レタス	露地野菜産地の形成の推進 ①厳寒期の4条植えから3条植えへ栽培体系の転換を図り、商品化率をあげ出荷数量を増加する計画生産の取組 ②国内需要の高いレタスの産地化に向けた高品質・安定供給の取組 ③ビニールハウスの導入による安定供給・高品質の取組 を推進することにより、10a当たり販売額の10%以上の増加を実現する。	10a当たり販売額の10%以上の増加	H28	361,040.8円/10a	R4	408,746.5円/10a	R4	471,350.0円/10a	577,223円/10a	453.2%	資機材等の導入及び栽培体系の転換により、収量向上が図られ、目標を達成できた。今後も引き続き、安定生産・出荷を図り、経営安定につなげてほしい。
八代市農業 再生協議会	12	八代地域 地区	キャベツ カリフラワー ブロッコリー	露地野菜産地の形成の推進 ①製氷機・予冷庫の整備による安定品質・安定供給の取組 ②出荷組織の再編集約による高収量栽培技術の共有化の取組	10a当たり販売額の10%以上の増加	H30	374,897円/10a	R4	420,041円/10a	R4	343,430円/10a	364,553円/10a	-23.2%	外食需要等の減小による、出荷量減少及び単価下落により、目標未達となった。今後は、需要に応じた計画的な生産・出荷により、収量・単価の向上を図り、目標を達成できるよう指導していく。

八代市農業再生協議会	13	八代市南部地区	水稻 麦 露地野菜	<p>①コンバイン、ロータリー、ハロー、田植機の導入により、適期かつ効率的な、耕起、代掻き、植付及び収穫を行うことで、規模拡大とともに品質向上によって単価の向上を図る。</p> <p>②麦踏ローラーを使った麦踏の適期実施による麦の収量増加を図る。</p> <p>③野菜の収穫の効率化による品質向上及び収量増加を図る。</p> <p>④県南広域本部、八代市と協力し現地検討会を開催して栽培技術の向上を図る。</p> <p>⑤計画的に暗渠排水を導入すること及びロータリー、サブソイラーを導入することにより圃場の排水性の向上を図り、麦、野菜の規模拡大、収量増加及び品質向上を図る。</p> <p>①②③④⑤を推進することにより、栽培技術及び品質、単価の向上を図り10a当たり販売額の10%以上の増加を実現する。</p>	販売額の10%以上の増加	R1	63,992円/10a	R4	73,040.8円/10a	R4	48,958.1円/10a	49,383円/10a	-161.4%	全品目において目標単収に到達していない。特に、キャベツやカリフラワーの生産量が減少している。野菜部門での労働力が不足し、収穫遅れが発生したため、人員の配置を見直し、導入した機械の有効活用に努めるよう指導していく。
嘉島地域農業再生協議会	1	嘉島地区	水稻	機械導入	販売額の10%以上の増加	R1	81,066円/10a	R4	89,173円/10a	R4	69,823円/10a	-	-138.7%	令和4産米は台風等気象の影響により単収及び品質が低下したため、販売額が伸び悩み、目標未達成となっている。今後、栽培指導を強化することで単収の向上を図り、目標の達成を目指す。

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物名	取組内容	成果目標	現状値		目標値		実績値		価格補正後の実績値	達成率	都道府県の評価
						年度	現状値	年度	目標値	年度	実績値			
熊本地域農業再生協議会	10	天明地区	ベビーリーフ	施設野菜(ベビーリーフ)の低コスト耐候性ハウス及び集出荷貯蔵施設を整備し、作付面積拡大及び加工・小袋出荷の生産量拡大を図る。	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上	R1	52%	R4	85%	R4	85.2%	-	100.6%	低コスト耐候性ハウス及び集出荷施設を導入したことで、高品質で安定した出荷量を確保し、契約取引量の増加につなげることができた。
玉名市地域農業再生協議会	5	滑石共和地区	レンコン	①パイプハウスの資材を導入し促成栽培を行い、れんこんの出荷を早めることで、契約率向上を図る。 ②れんこん専用トラクターを導入し、ハウス内の安全な耕耘および規模拡大を図る。 ③コンポキヤスターを導入し、効率的な肥料散布および規模拡大を図る。 ④れんこん専用の収穫機械を導入し、作業時間の短縮を図る。 ⑤新たに整備する集出荷貯蔵施設に予冷施設と選果機械等を導入し、出荷体制を安定させることで契約栽培率の向上を図る。	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上	H29	17.6%	R4	90.5%	R4	99.8%	-	112.8%	生産体制の構築により安定出荷が可能となったことから、大部分を市場出荷から契約出荷に移行することができた。今後は、面積、出荷量の目標を達成し、産地の維持・拡大に向けて取り組んでほしい。

氷川町農業再生協議会	3	若洲地区	水稻	①育苗施設導入による安定した計画生産の取り組み ②安定的な生産、出荷量確保するために、良質な苗作りに取り組む ③新たな機械の導入により、更なる生産規模の拡大に取り組む	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上	H30	83.3%	R4	96.4%	R4	100.0%	-	127.5%	育苗施設及び新たな機械の導入により、栽培面積の拡大が図られた。契約先への安定出荷が可能となり、目標を達成することができた。今後も産地の認知度向上に向けた取組みを継続して行ってほしい。
------------	---	------	----	---	-------------------------	-----	-------	----	-------	----	--------	---	--------	---

(5) 農産物輸出の取組

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物名	取組内容	成果目標	現状値		目標値		実績値		価格補正後の実績値	達成率	都道府県の評価
						年度		年度		年度				
錦町農業再生協議会	1	錦町あさぎり町	水稻	穀類乾燥調製貯蔵施設等の再編利用による米の輸出の実施	輸出向け年間出荷量10トン以上	H30	0t	R4	10t	R4	10t	-	100.0%	海外需要の変化に応じて、対象品種を「やまだわら」から「ヒノヒカリ」へ変更することで、輸出向け出荷量を達成した。